

望岳山荘  
いって



中嶋 嶺雄

できる。カザルスが世界平和を願って一九五八年に国連ホールで弾いた自作の「鳥の歌」は、いまやチェロ曲の古典になりつつある。

それほどのカザルスが一九六一年四月に来日した折に、鈴木鎮一先生指導下の才能教育研究会の子供たちのヴァイオリン演奏を東京の文京公会

堂で聴き、感動の涙とともに「音楽は世界を救う」と絶賛されたことがあった。才能教育研究会は、この事実を語り継ぐと、彫刻家の城田孝一郎氏によるカザルスの胸像を製作し、松本市深志三丁目の才能教育会館前の旧深志公園の一角、鈴木鎮一先生が手塩にかけて育てられた通称ライラック公園の一隅に建立して、世界か

二十世紀最高のチェリストとして知られたパブロ・カザルスには、多くの記念碑的な演奏がある。なかでもヴァイオリンのジャック・ティボー、ピアノのアルフレッド・コルトーと組んだカザルス・トリオによるベートーヴェンのピアノ三重奏曲「大公」は、もう二度とこんな芸術的成熟に出会うことがないといっている。いまではCDでも聴くことが

ら訪れる音楽関係者や全国から集まるズブキ・メソードの子供たち、保護者の方々に紹介して大切に保存してきた。

私は現在、才能教育研究会の常務理事兼議長をお引き受けしているのので、一般の理事会の折に、カザルスの像はどこへ行ったのか事務局の方に尋ねたところ、新

カザルスの嘆き

しい市民会館の建設のために取り外されてしまったことでも再建されるのかと確かめたところ、その保証はなく、屋上にできる人工公園に移されるらしいとのことであった。しかし、あのカザルス像は、松本市を発信源として全世界に広まって

いった手作りの民間音楽教育運動のシンボルだったのである。いまやその原点の才能教育会館など軽く押し潰されてしまいそうに聳立する巨艦のような新しい市民会館が、本当に芸術や文化を大切にす場所であるのなら、精々二、三メートル四方のカザルス像を屋上に押し上げてしまふことなどのないように、是非お願いしたい。

中町二丁目から源池小学校へ通った私にとっては、学校の帰りによく遊んだ深志公園の池のほとりや子供の頃よく野球をやった広場、さらに思い出をたどれば微かに記憶に残る映画館「キナパーク」跡へ通する道などが消えてしまったのは惜しい。それだけに、思い出多き場所がハ

コモノ行政の典型のような

無粋な空間にだけはなっ

てほしくない。  
文部科学省関係の私の友人・知人が役員をつとめ、オペラ上演を目的の一つにしている東京の新国立劇場が、毎年数十億円の国費を注ぎ込んでも四苦八苦していることをいつも聞かされているだけに、また世界の指揮者・小澤征爾氏は最近、いかにも氏らしく、石原慎太郎・都知事と組んで東京をウィーンと並ぶ世界のオペラ都市にという「東京のオペラの森」構想をもたれているだけに、郷里の文化施設は、美しい四囲の山並みや城下町らしい歴史と伝統をもつ松本市に相応しい内容の、松本ならではの素晴らしいものであってほしいと思う。  
(国際社会学者 松本市出身)